第３回府中市都市計画審議会部会（都市計画マスタープラン策定委員会）
議事概要

○開催日
令和４年１０月５日（水）10：00～11：40

○開催場所
府中市役所４階　第一委員会室

○出席委員
岡辺重雄（会長）、加藤誠章、田中貴宏、梅林幾彦、山口謙二（古川委員の代理）

○議題
・府中市都市計画マスタープラン改訂にあたっての市の懸念事項と各章のつながりについて

○議事概要
【委員】

（住民の避難行動強化について）マイタイムラインは住民主体の施策であり、行政としてできる施策を示す必要がある。地区防災計画の立案促進や避難場所浸水時・災害危険箇所の確認等のほか、浸水時危険箇所への看板の設置等、計画に記載してはどうか。

また、外水氾濫した場合の被害が深刻。水平避難を支援する取組についても記載いただきたい。

【会長】

行政として対応する部分、市民に協力してもらう部分を明確にしてはどうか。

【事務局】

都市マスの中で、どこまで記載するのかを考える必要がある。自主防災組織は 100％あり、実践的な訓練も実施している。

マイタイムラインもだが、避難ルートの周知が重要なため、施策の見える化について推進する旨を記載することが重要。既往の取組としては府中市の「My 府中」というアプリで避難所や AED 設置箇所を公表している。

【委員】

水害に係る土地利用規制について、水害対策は避難だけでなく、宅地の嵩上げ等を地区計画で設定する方法もある。住民との合意形成が重要となる。

【委員】

第４章地域別構想の地区２（高木・中須・広谷・鵜飼）では人口重心が移動しているということで、これを契機とした魅力を示してはどうか。子育て支援以外にもアピールできることがあれば記載いただきたい。

【事務局】

沿道の利便性向上や子育て環境の充実を軸として魅力を示していきたい。それ以外にもあれば盛

り込みたいと思う。

【会長】

例として、国道486号の4車線道路区間で、沿道型の商業施設の進出が見られ、車両の出入りにより、片側一車線が機能不全になっている。商業施設を分散させることも一考。

【委員】

地区4（都市計画区域外の集落市街地）のキャンプ場の活用は市として押し出していくのか。

【事務局】

キャンプ場はあくまで1つの地域資源として位置付けており、地域資源を活かしながら、地域に根付く取組をしていきたいと考えて記載している。

【委員】

ブランディングとあるが具体的な取組を教えていただきたい。

【事務局】

３つのキャンプ場の一体的リニューアルまたは個別リニューアルをしながら地域資源を磨いていきたい。民間活力の導入も見据えながら、対外的にアピールしていきたい。

市街地拡大の時代から、地区計画を活かした企業立地や移住者の呼び込みへ変化する時代にある中で、自然を享受しながら、まちなかで仕事により自己実現ができるようにしたい。また、キャンプ場でのワーケーションや田舎暮らしをしながらリモートワークするなど新しいライフスタイルを支援する取組を地区４では行いたい。

【委員】

テレワークは地区４ではフィットすると思うが、グリーンツーリズムやキャンプ場の活用は多様なライフスタイルの実現に馴染まないのでは。キャンプ場の発展は里山そのものの活用にはならず、市の魅力発信・観光振興に留まると思う。民泊やオフィスによる活用が集落市街地の発展に寄与すると考える。

【会長】

観光としてのキャンプ場なのか、移住のきっかけとなる地域振興施設としてのキャンプ場なのか。民間任せになると観光振興だけになってしまうので、集落の営みの面白さを体験してもらう入口であるという戦略であることを計画には記載いただきたい。

【事務局】

市の狙いとしては里山暮らしのきっかけとなるようにしたいと考えている。

以上